

<文化財の種類 有形文化財（考古資料）>

名 称	しもだいせきしゅつどうたく 下田遺跡出土銅鐸
員 数	1口
所在地	東大阪市長田東一丁目9番16号 (公益財団法人大阪府文化財センター中部調査事務所)
所有者	大阪府
年 代	弥生時代中期後葉～後期

説 明

○出土遺跡の概要

下田遺跡は、大阪府堺市西区下田町から鶴田町に位置する、弥生時代から古墳時代にかけて営まれた集落遺跡である（図1）。大阪府と和歌山県を画する和泉山脈より派生する和泉丘陵上に立地している。弥生時代中期末から後期初頭には集落の断絶がみられ、石津川流域の集落動体と連動している。

○銅鐸の出土状況

銅鐸は、遺跡内の河道を掘削中に、その岸壁に掘られた土坑<sup>どこう</sup>から発見されたものである（図2、写真）。出土状況から推測される埋納の方法は、銅鐸が無理なく入る程度の土坑（長径32cm（短径は不明）、深さ32cm）を掘削し、銅鐸内部に土を詰め、<sup>ひれ</sup>緒を立てた状態で据え、埋め戻すというものである。埋納の時期は、共伴遺物がなく層位からのみの推定であるため時間幅があり、弥生時代中期後葉から弥生時代後期の間とみられる。

発掘調査により出土し、かつ確実な埋納状況の分かる銅鐸としては全国でも希少なものである。

○銅鐸の概要

銅鐸は、身部の両面を<sup>たすき</sup>襷状の文様で4分割する<sup>よんくけさだすき</sup>四区袈裟襷文であり、身部の左右の<sup>ちゆう</sup>鈕や把手である<sup>きよしもん</sup>鈕に<sup>いがた</sup>鋸歯文を充填させる。鑄型を掘り込んで文様を鑄出しているため、文様は浮き上がって見える陽刻である。銅鐸は把手の断面形状の違いから新古を判断し、大きく4つの段階に分けられる。本銅鐸は鈕の内外に平板な<sup>ふち</sup>縁が取り付く、第3段階の<sup>へんぺいしゅう</sup>扁平鈕（<sup>ないがいせんつきちゅう</sup>内外縁付鈕）式である。扁平鈕式の中で鑄造技術に変化があり、鑄型が石製から土製へと変化する。本銅鐸は土製の鑄型で鑄造された初期の段階のものである。また、本銅鐸は、第3段階の銅鐸の中でも、小型かつ扁平である点が特徴的である。A面の下方は、鑄造時に湯周りが不十分であったため<sup>いかけ</sup>鑄掛けを行うことで補充し、その部分に陰刻で文様を補充している（図4）。

銅鐸の内面にある突帯<sup>とつたい まもろ</sup>は磨耗しておらず、使用の痕跡を確認できない。そのため、「楽器」として鳴らされたことがない可能性が高い。

なお、出土後すぐに酸化が進行して緑青を吹いたが、A面は現状以上に酸化が進まないように保存処理を行い、B面はクリーニングにより鑄造当時の輝きを復元させて保存処理を行っている。

#### ○下田銅鐸の意義

銅鐸が発掘調査で出土し、かつ埋納の方法まで明らかにできている点は、先にも述べたように全国的にも希少な例といえる。埋納の方法を詳細に復元できたことで、銅鐸の埋納儀礼と祭祀の解明にもつながる可能性がある。

また、本銅鐸の時期にあたる弥生時代中期後葉から後期にかけて、石津川流域の弥生集落は平地から高地へと移動する。下田遺跡の集落も、弥生時代後期初頭には一時断絶しており、高地に移動したものと考えられている。集落の断絶する時期と銅鐸の埋納の時期が重なる点で、集落における銅鐸の埋納儀礼と祭祀の実態が明らかとなった。

さらに、鑄型が土製に変化した時期の資料であり、湯周りの不十分な部分を鑄掛けで補うなど、鑄造技術の観点からも、多くを観察できる良好な資料といえる。弥生時代の青銅器の鑄造技術を解明する上でも本銅鐸の果たす役割は大きい。

以上のことから、下田遺跡から出土した銅鐸は、弥生時代における銅鐸の生産・祭祀の実態に迫る貴重な事例であると評価できるため、大阪府の指定文化財として十分な価値を有する。

#### [参考文献]

西村歩ほか編『下田遺跡―都市計画道路常盤浜寺線建設に伴う発掘調査報告書―』財団法人大阪府文化財センター 1996

難波洋三「銅鐸群の変遷」『豊饒をもたらす響き 銅鐸』大阪府立弥生文化博物館 2011

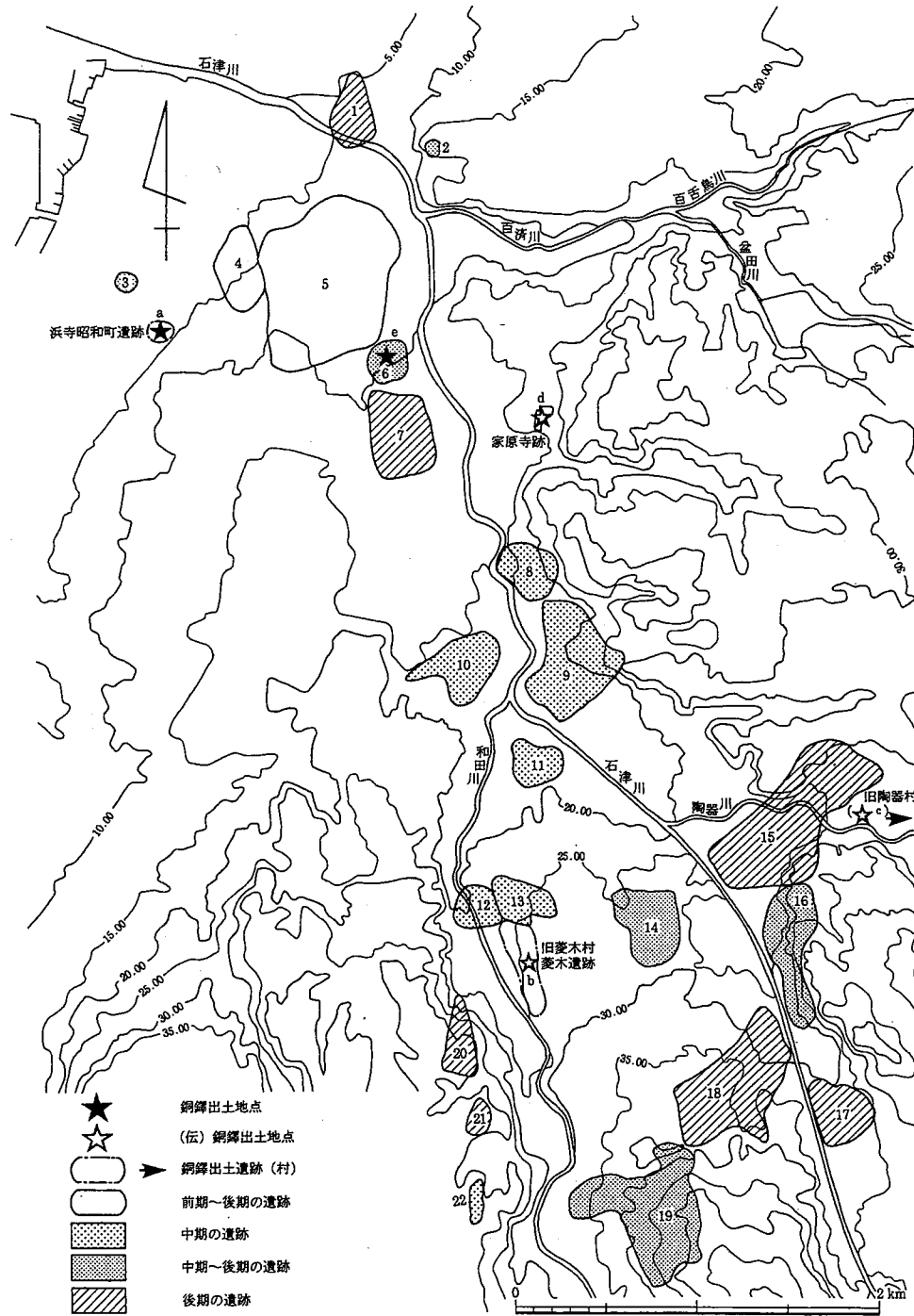


図1 石津川流域における弥生時代の主要遺跡と銅鑄出土地  
(西村ほか 1996 より)

- |               |           |            |         |     |
|---------------|-----------|------------|---------|-----|
| 1 石津遺跡        | 13 菱木下遺跡  | ＜銅鑄出土地点＞   | a 浜寺昭和町 | 和泉Ⅲ |
| 2 霞ヶ丘遺跡       | 14 万崎池遺跡  |            | b 菱木    | 和泉Ⅳ |
| 3 浜寺黄金山遺跡     | 15 小阪遺跡   | c (伝) 旧陶器村 | 伝和泉Ⅰ    |     |
| 4 浜寺元町遺跡      | 16 伏尾遺跡   | d (伝) 家原寺  | 伝和泉Ⅱ    |     |
| 5 四ッ池遺跡       | 17 深田橋遺跡  | e 下田       | 和泉Ⅶ     |     |
| <b>6 下田遺跡</b> | 18 大庭寺遺跡  |            |         |     |
| 7 箱田町遺跡       | 19 野々井遺跡  |            |         |     |
| 8 毛穴遺跡        | 20 山田北遺跡  |            |         |     |
| 9 鈴の宮遺跡       | 21 昭和池遺跡  |            |         |     |
| 10 上遺跡        | 22 野々井西遺跡 |            |         |     |
| 11 万崎遺跡       | (狐池南)     |            |         |     |
| 12 西浦橋遺跡      |           |            |         |     |

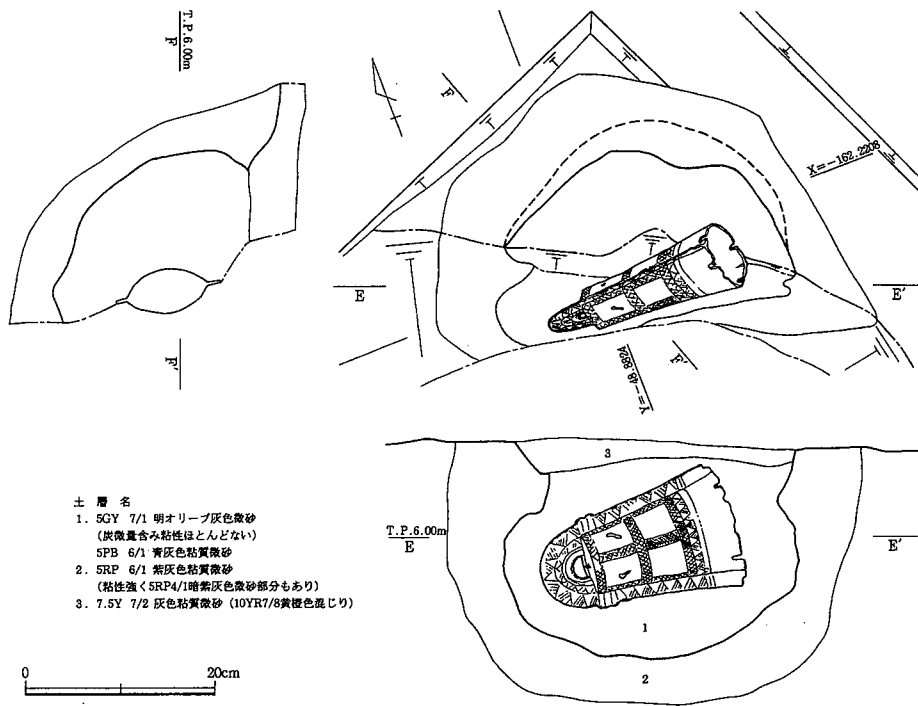


図2 下田遺跡銅鐸の出土状況図  
(西村ほか1996より)



写真 下田遺跡銅鐸の出土状況写真  
(西村ほか1996より)

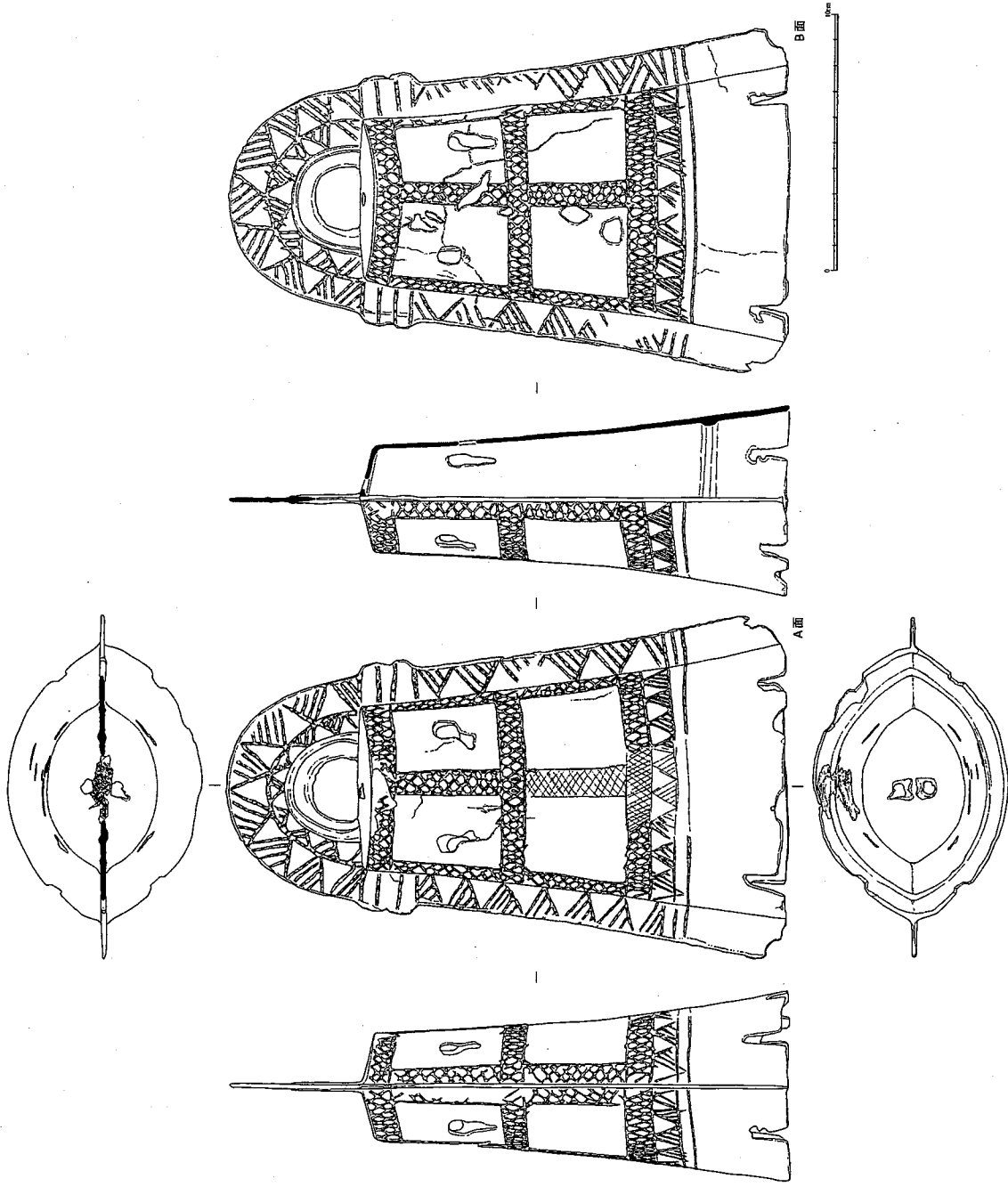


図3 下田遺跡銅鐸 実測図  
(西村ほか1996より)

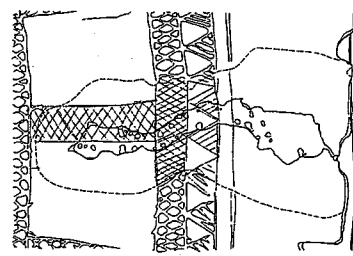


図4 下田遺跡銅鐸 (A面)  
鑄掛け部分  
破線は鑄掛けの範囲を示す  
(西村ほか1996より)

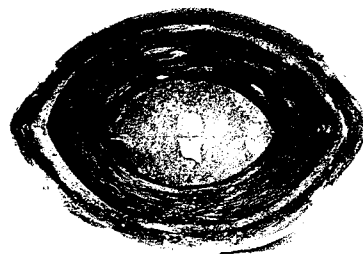
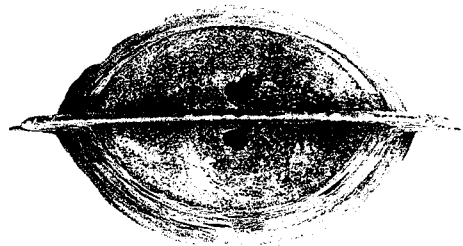
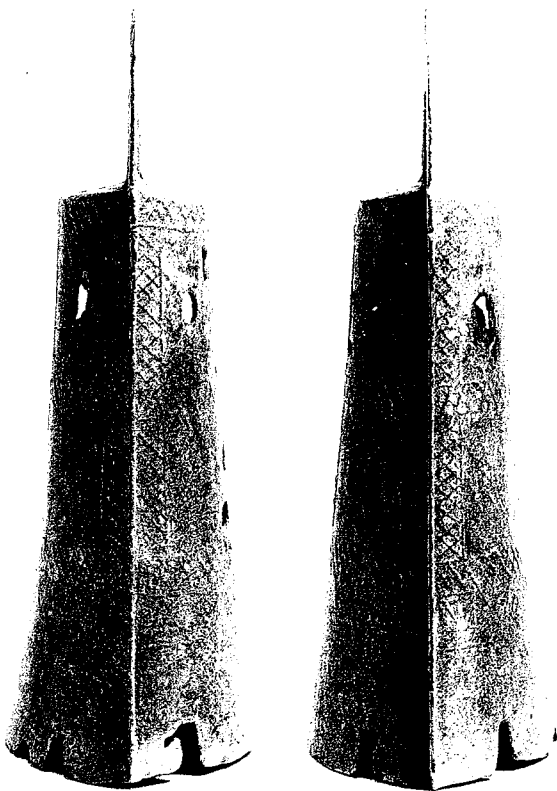


写真 下田遺跡出土の銅鐸  
(西村ほか 1996 より)